

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ひなたぼっこハウス	公表日	2025年 12月24日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		ベッド位置の変更等を行い、より活動スペースを広げました。また、配置物を少なくすることにより活動領域を広げてあります。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		重症心身障害児および医療的ケア児の受け入れにあたり、利用定員や児童の状態を考慮した職員配置を行い、常時複数職員による見守り・支援体制を確保している。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間は、子どもにとってわかりやすく構造化された環境となっており、障害特性に応じたバリアフリー化や情報伝達等の環境上の配慮が適切になされている。	概ね適切であるが、個々の特性に応じた環境設定や職員間での共有について、継続的な見直しを行う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		重心・医療的ケア児の体調変化や医療的ケア、休息及び情緒の安定を目的として、個別の部屋やスペースを柔軟に使用できる環境を確保している。	医療的ケアや休息がより行きやすいよう、個別スペースの環境や備品について必要に応じて見直しを行う。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		体調変化や医療的ケア、情緒の安定等、必要に応じて個別に配慮できるスペースを確保している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		常勤・非常勤を問わず職員が、ミーティングや書面等を通じて目標設定および振り返りに参画し、PDCAサイクルに基づく業務改善を行っている。	医療的ケアを含む支援内容について、職種や勤務形態に関わらず意見を反映できるよう、振り返りの仕組みをさらに整備する。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		非常勤職員を含めた情報共有の方法をさらに工夫し、保護者評価の内容がより確実に日々の支援に反映される体制づくりを進める。	医療的ケアや体調管理に関する保護者の意向について、評価結果をもとに検討の場を増やし、支援の質向上につなげていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議や書面等により職員の意見を把握し、業務改善に活用しているが、非常勤職員への周知や意見反映の機会については更なる工夫の余地がある	収集した意見について、対応状況や改善結果を職員へフィードバックする機会を増やす
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現時点では第三者による外部評価は実施していないが、保護者評価や日常の支援振り返りを通じて課題を把握し、業務改善に反映している。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		重症心身障害児・医療的ケア児への支援に関する研修を含め、職員が研修を受講できる体制を整えている。	医療的ケアや重症心身障害児支援に関する専門研修の受講機会をさらに充実させていく。
適切な支援の構造	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムは、子どもの障害特性や医療的ケアの内容を踏まえて作成し、保護者に説明のうえ、保護者配布資料等により公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個々の子どもについて、心身の状態、医療的ケアの内容・生活状況、発達段階等を多職種でアセスメントし、子ども本人および保護者の意向を踏まえた上で、客観的にニーズや課題を整理し、放課後等デイサービス計画を作成している。	アセスメントや計画作成において、非常勤職員からの意見収集や情報共有の機会をさらに充実させる必要がある。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、看護師・支援員等、子どもの支援に関わる職員が情報を共有し、共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した放課後等デイサービス計画の検討・作成を行っている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		子どもの状態や医療的ケアの内容を含めた放課後等デイサービス計画を職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	医療的ケアや体調変化に関する支援内容について、職員間での共有方法をさらに統一していく必要がある。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		医療的ケアや発達特性を踏まえ、標準化されたアセスメントと日常の行動観察の両面から、子どもの適応行動を確認している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービス計画の作成にあたっては、ガイドラインに示されている「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらいを踏まえ、重症心身障害児・医療的ケア児の特性や健康状態、発達段階に応じた支援項目を適切に設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、看護職員・支援員等が情報を共有し、子どもの心身状況や医療的ケアの必要性を踏まえ、チームで活動プログラムの立案を行っている。	活動プログラムの検討過程をより明確に記録として残し、チーム内での共通理解をさらに深めていく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの発達段階や体調、医療的ケアの必要性等を踏まえ、複数の活動プログラムを用意し、職員間で検討の上、日々内容を調整しながら実施している。	今後は活動プログラムの実施状況をより可視化し、定期的な見直しを行うことで、子ども一人ひとりに応じた支援の充実を図る。

供 与	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	子どもの体調変化、医療的ケアの必要性、情緒の安定状況を踏まえ、無理のない範囲で個別活動と小集団・集団活動を適宜組み合わせた放課後等デイサービス計画を作成し、支援を行っている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前の打合せは状況により十分に行えない場合もあるが、支援内容や役割分担、医療的配慮事項については、申し送りノート記録の必読や口頭引き継ぎ等により職員間で共有し、チームで支援を行っている。	特に医療的ケアや体調変化に関する情報について、事前共有の方法を整理し、確実な伝達体制の構築を進める。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後の打合せは状況により実施が難しい日もあるが、記録や申し送りにより、その日の支援の振り返りや気付きの共有を行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援終了後には、LINE等の連絡ツールを活用し、職員間でその日の支援内容の振り返りや気付き、重心・医療的ケア児の体調変化等について情報共有を行っている。	現在は主にLINEを活用した情報共有を行っているが、今後は定期的な振り返りの機会を設け、より体系的な支援の振り返りが行えるよう改善を図る。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを実施し、子どもの心身状況や医療的ケアの変化を踏まえて、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、必要に応じて適切に見直しを行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○	放課後等デイサービスガイドラインに示されている「4つの基本活動（自立支援・日常生活支援、創作活動・地域交流、余暇の提供）」を、子どもの発達段階や健康状態（重心・医療的ケアを含む）に応じて複数組み合わせ、計画的に支援を行っている。	重心・医療的ケア児については、体調管理や休息を重視しつつ、4つの基本活動を無理のない形で組み合わせた支援内容の整理を進めしていく。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	重心児・医療的ケア児についても、体調や意思表出の方法に配慮し、表情・反応・視線等を丁寧にくみ取りながら、可能な範囲で自己選択・自己決定を促す支援を行っている。	医療的ケアや体調変動の影響を踏まえ、無理のない範囲で自己決定の機会を増やし、より丁寧な意思のくみ取りに努めていく。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	重症心身障害児・医療的ケア児については、日常の支援や医療的ケアの状況を把握している職員が会議に参画し、健康面・生活面を含めた具体的な情報共有を行っている。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	主治医・協力医療機関、相談支援事業所、学校等と連携し、必要に応じて情報共有や支援内容の調整を行い、子どもの状態に応じた支援体制を整えている。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校と年間計画・行事予定等の情報交換を行うとともに、下校時刻の確認や送迎時の連絡調整、トラブル発生時の連絡体制を整え、適切に連携している。	学校との連携は概ね行えているが、行事予定や下校時刻の変更等について、より確実に把握できるよう、情報共有方法や確認手順の整理を進めている。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	就学前に利用していた保育所・幼稚園・認定こども園・児童発達支援事業所等と、支援内容や配慮事項について情報共有を行い、相互理解に努めている。	医療的ケアや生活面の配慮についても、就学前の支援機関からの情報をより丁寧に整理し、支援計画への反映を一層進めていく。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	学校卒業後に障害福祉サービス事業所等へ移行する際には、本人の特性やこれまでの支援内容、配慮事項等について、関係機関へ情報提供を行い、円滑な移行に努めている。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	重心児・医療的ケア児の状況を理解する職員が会議に参画しているが、専門性向上のための研修参加は十分とは言えず、今後の充実を図る必要がある。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○	重心・医療的ケア児が在籍していることから、安全管理や医療的配慮を優先する必要があり、現時点では放課後児童クラブや児童館等との交流や、地域の他の子どもと活動する機会の確保には至っていない。	今後は、関係機関と連携しながら、重心・医療的ケア児でも参加可能な交流の在り方について情報収集を行い、段階的な実施を検討していく。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	自立支援協議会等に積極的に参加し、重心・医療的ケア児の支援に関する情報共有や課題整理を行っている。	
	34 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	全ての保護者とLINEかメールで運営チームがつながり、体調変化や医療的ケアの状況、発達の様子を随時共有し、共通理解に基づいた支援を行っている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンットレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	重心・医療的ケア児の特性を踏まえ、日常の関わり方や医療的配慮について、家族への情報提供や助言を行っている。	
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について、契約時に口頭で丁寧に説明するとともに、書面およびLINEを活用して情報提供を行い、重心・医療的ケア児については医療的配慮や支援体制も含めて説明している。	口頭・書面・LINEを併用した説明の整理と、理解確認の仕組みづくりを進める。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	子ども・保護者との面談や日常のやり取りを通じて意向を確認し、重心・医療的ケア児については保護者の意向や医療的配慮を十分に踏まえ、子どもの最善の利益を優先して支援内容に反映している。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>	個別支援計画（放課後等デイ計画）を提示し、支援内容・医療的ケア手順等を説明の上、保護者から署名等により同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>	重心・医ケア児については、医療・生活面の不安も含めて傾聴し、必要時は主治医・相談支援等と連携して支援している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>	LINEを活用して、活動の内容や行事の予定、連絡方法などを、こどもや保護者に分かりやすく伝えている。 重い障がいのあるこどもや医療的なケアが必要なこどもについては、体調や医療面に配慮した情報を、必要に応じて個別に伝えている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>	苦情対応の窓口及び手順を定め、こども・保護者に周知するとともに、苦情があった場合は管理者等が中心となり、迅速かつ適切に対応している。重心・医療的ケア児については、医療的配慮を踏まえた対応を行っている。	重心・医療的ケア児に関する体調変化や医療面の不安について、LINEを活用して速やかに情報共有・初期対応ができる体制を整える。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>	定期的に通信を発行するとともに、SNS・LINE等を活用し、活動概要、行事予定、連絡体制等の情報を、写真や動画も用いてこども・保護者に分かりやすく発信している。重心・医療的ケア児については、個別配慮事項にも留意して情報共有を行っている。	LINEを活用した写真・動画による情報発信を継続するとともに、HPについても内容を整理し、活動概要や行事予定等が分かりやすく伝わるよう現在リニューアルを行っている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>	個人情報保護方針を定め、重心・医療的ケア児を含む利用児および家族の個人情報について、職員間で取扱いルールを共有し、書類管理・情報共有の際には十分に配慮している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>	障害の特性や発達段階、重心・医療的ケア児の状態に配慮し、視覚的支援やわかりやすい言葉、保護者との密な情報共有を通じて、意思の疎通および情報伝達に努めている。	こども一人ひとりの理解しやすさを踏まえた支援方法の整理を進めるとともに、意思表示が困難な重心・医療的ケア児については、保護者や関係職種との情報共有をより一層充実させる。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>	重心・医療的ケア児が在籍しており、安全面・医療的配慮を最優先としているため、地域住民を招待する行事は現時点では実施していない。	感染症対策や医療的安全性を十分に確保した上で、地域住民向けの事業所見学やオンライン交流、地域行事への部分的参加等、段階的に地域とのつながりを持つ方法を検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応に関するマニュアルを整備し、重心・医療的ケア児の特性を踏まえ、職員へ周知を行っている。非常時を想定した対応については、日常の支援や打合せの中で確認を行っている。	保護者に対しても、緊急時の対応方針や連絡体制について、書面やLINE等を活用し分かりやすく周知していく。
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>	業務継続計画（BCP）を策定し、重症心身障害児・医療的ケア児の特性を踏まえた非常災害時の対応体制を整備するとともに、避難・救出等の訓練を定期的に実施している。	今後は、災害種別（地震・水害等）ごとの対応をより具体化するとともに、人工呼吸器・吸引・非常用電源等、医療的ケアに必要な物品を想定した訓練を行い、職員間の役割分担や対応力の向上を図る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>	利用開始前および定期的に、服薬状況・予防接種歴・てんかん発作等の健康状態について、保護者から書面および聞き取りにより確認し、職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>	医師の指示書に基づき、食物アレルギーのあるこども一人ひとりの状況を把握し、誤食防止や緊急時対応を含めた適切な対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>	安全計画を策定し、研修・訓練等を通じて安全管理体制を整え、重心・医療的ケア児を含めた支援を安全に実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>	重心児・医療的ケア児を含むこどもの安全確保について、安全計画に基づく取組内容（緊急時対応・医療的ケア・事故防止等）を、契約時や面談、書面を通じて家族へ周知し、連携を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>	ヒヤリ・ハット事例を記録し、職員間で共有するとともに、重心児・医療的ケア児の特性を踏まえ、再発防止に向けた対応策の検討を行っている。	ヒヤリ・ハット事例について、定期的に振り返る機会を設け、重心児・医療的ケア児に関するリスク要因を整理するとともに、対応手順の見直しや職員研修に反映させる体制を強化する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>	虐待防止の観点から、虐待防止研修を入職時に必ず実施している。また全職員を対象に定期的な研修機会を確保するとともに、重症心身障害児・医療的ケア児の特性を踏まえた適切な関わり方や支援方法について周知・共有している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>	身体拘束がやむを得ず必要となる場合については、職員間で組織的に判断基準を共有し、重心・医療的ケア児の特性に配慮した上で、こども・保護者に事前に十分な説明を行い、同意を得た上で放課後等デイサービス計画に記載している。	